



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第7号 (H22.5.24)

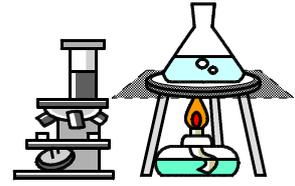
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



都城泉ヶ丘高等学校・附属中学校創立記念行事及び開校記念行事開催！

記念講演 演題「やれば、できる」

講師 小柴昌俊 氏 (財団法人平成基礎科学財団理事長 東京大学特別荣誉教授)

5月19日(水)に高校における創立111周年・附属中学校の開校ということを記念しまして講演会を開催しました。講演者には「小柴昌俊」氏を招いて「やれば、できる」という演題で講話をしていただきました。小柴先生は、84歳というご高齢を感じさせない話ぶりで「宇宙ニュートリノの検出」という天体物理学をわかりやすく説明されました。先生は、講演の中で何回も「本気」という言葉をだされました。「本気でやってください！、本気になって考えてください！、本気になってやりたいと思ったことをやってください！」など、先生の言葉に対して、生徒はどう感じたのでしょうか？きっと、今の自分を振り返るチャンスをもたらったのではないのでしょうか？生徒諸君！今がチャンスです。今を大事にしてください！本気でやってみましょう！



小柴昌俊氏(こしばまさとし、1926年9月19日)は、日本の物理学者。2002年「天体物理学とくに宇宙ニュートリノの検出に対するパイオニア的貢献」によりノーベル物理学賞を受賞。素粒子物理学・宇宙線物理学の分野で多大な業績を上げた。

小柴先生、今日はお忙しい中、私たちのために東京から来てくださりありがとうございます。小柴先生は、2002年に天体物理学、特にニュートリノの検出に対する貢献で、ノーベル物理学賞を受賞されました。それ以降、私たちもテレビや新聞でニュートリノやカミオカンデという言葉を目にするようになり、先生がテレビに出演されているのたびたび拝見しました。その有名な先生のお話が今日聞けることを私たちはとても楽しみにしています。今日の講演は「やれば、できる」というテーマとお聞きしています。中学生である今、このような話を聞ける機会に恵まれたことに感謝し、先生のお話からたくさんを学びたいと思います。



(生徒代表挨拶：稲元七星 花束贈呈：吉永愛里彩)

そして、自分の目標設定や自己実現に役立てて思いますどうかよろしくお願いします。 生徒代表 稲元七星



ニュートリノとは、……電氣的に中性(電荷ゼロ)で、重さ(質量)がほとんどゼロの粒子のことです。

ニュートリノ天文学は、これを観測して星そして宇宙のメカニズムを探ろうという新しい分野の学問です。また、宇宙のはじまりにおきたビッグバン直後から宇宙を満たしてきたニュートリノを観測することによって宇宙誕生のようすがわかるはずとされています。

記念講演「やれば、できる」 小柴昌俊先生から学んだこと！

泉ヶ丘高等学校創立記念・開校記念行事にきて下さりありがとうございました。私は、将来、物理学者になりたいのですが、先生がお話しになったこと、お見せになったことは、とても貴重になりました。カミオカンデを作ったり、ニュートリノ振動を発見したり、平成基礎科学財団を作ったりして、私もたくさんの方に必死に追求できるようになりたいです。私は、物理学者になるため、たくさん勉強しているので、先生の言っていることは大体理解できました。知らない言葉や分からない部分もあったので、もっと勉強しないとイケないなあと思いました。僕がなりたい物理学者は天文物理学についての物理学者です。私は、アインシュタインのような物理学者になりたいです。…先生のお話は、私の将来に本当に役立つと思います。ありがとうございました。 (新田源斗)

…私にとっては、とても難しいお話ばかりでした。でも、「夢」をかなえるためには、夢中になることが大切なんだなと思いました。これからいろいろな経験をして、自分が夢中になれるものを探し続けていきたいです。また、一番驚

いたのは、「ノーベル賞をとるつもりはなく、自分が夢中になっていたら、受賞の電話が来た」ということです。私なら、ノーベル賞を意識してもらってはできません。改めて小柴さんの素晴らしさが良くわかりました。私は、今、未来の事を考える程の余裕はありません。でも、この進学校の附属中第一期生として、沢山の経験を積み頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。 (橋口芳菜)

私が小柴先生の講演を聞いて、一番心に残った事は、「本気でやれば、どんな困難に会っても、やめる気にはならない」という言葉と、「自分からやりたいと思ってやった事と人から言われてやった事では違う」という言葉です。この言葉は、どんな事にも共通する事だと思います。私は、小柴先生の言葉を頭に入れていきたいと思っています。そして、自分から「やりたい」と思ったことを見つけて、それができるようにがんばります。ニュートリノは私には難しい話でした。でも、小柴先生が観測の難しいニュートリノを観測されたのは、すごいなあと思いました。… (渡邊美波)

だれかのために尽くす

人間にはさまざまな欲望があります。その欲望を叶（かな）えたとき、脳の中にはβエンドルフィンという物質が分泌されるそうです。それは「喜びの物質」と呼ばれ、つまりは幸福感の元になるものです。ところがいったん欲望が満たされると、脳は満足して「もうこれ以上はいらない」というシグナルを送ります。たとえば、食欲にしてもお腹がいっぱいになれば、これ以上食べたいと思わないでしょう。睡眠欲にしても十分に眠れば、もうそれ以上は眠たくはなりません。脳の中での欲望のリミッターが働くわけです。

だれかのために尽くして、喜んでもらえる。そうした瞬間にも、同じように脳内には喜びの物質が出ています。幼いころには母親の手伝いをして褒（ほ）められる。母親が喜び姿を見て、本当に幸せな気分になる。そんな経験はだれにでもあるでしょう。不思議なことに、人に尽くして得る幸福感には、他の欲望のようなリミッターが存在しないのだそうです。だれかのために尽くす喜びには、それこそ際限（さいげん）がありません。「もう満足したからいいよ」というシグナルを脳が送ることはない。人間はだれかのために尽くせば尽くすほど、果てしない幸福感を得るようにプログラムされている。これは神（私はサムシング・グレートと呼んでいる）が、人間に与えられた最高の贈りものだと思います。

PHP「尽くして得る喜び 加山雄三」

この文章を読んだとき、以前に呼んだ本の中で、櫻井よしこさんの「幸せになる方法はカンタン」を思い出しました。櫻井さんも幸せになる方法は「だれかを幸せにする方法を考えればいい」と書かれていました。「だれかのために尽くす」という行為が、自分自身を幸せにする。「人間が持つ生理的な欲望にはリミッターがあるが、人に尽くして得る幸福感にはリミッターがない。それは、人間に贈られた最高の贈り物」と加山さんと言われています。神が私たちに与えられた。この最高の贈り物をもっと大切にしたいと思うのですが、私たちは最近ちょっと忘れていないでしょうか。自己中心的な考え方が横行しているように思います。日々の生活の中で簡単にできることから始めればいいのかと思います。例えば「笑顔であいさつ」などはいかがでしょうか。朝、生徒から、笑顔で元気にあいさつされると、それだけで幸せな気分になります。清掃の時間に、生徒玄関やトイレを真剣に清掃している附属中1年生の姿はそれだけで私を幸せな気持ちにしてくれます。「ごみ拾い」「後片付け」「お手伝い」「肩たたき」「掃除」など、そう時間がかかるわけでもなく、簡単にできることばかりです。そのことが周囲にいる人を幸せな気分にしてくれるのです。家庭のために、友のために、学校のために、だれかのために尽くす行為が、社会を明るくし、幸福感を醸（かも）し出します。さらにそれは、自分自身をも幸せにしてくれていることが多いと思います。



